

●みやぎ がん患者会研修会2013

患者会の役割とこれから ~つながることからはじめよう~

講演 花井美紀さん(NPO法人ミーネット理事長)
体験発表 吉田久美子さん(東北大学病院がんセンター看護師)

日時:平成25年3月16日(土)13:30~15:30
場所:仙台市シルバーセンター 6階 第二研修室
【対象】がんの患者さん、ご家族、がん相談支援センター相談員、行政担当者など



●チーム医療ワークショップ

みんなで手をつなごう!
~患者さんを取り巻く仲間たち~

第2回 石巻市

日時:平成25年1月26日(土) 14:30~18:00

場所:石巻グランドホテル

第3回 大崎市

日時:平成25年2月23日(土) 14:30~18:00

場所:芙蓉閣

【対象】医師、薬剤師、看護師、MSW等の医療関係者



第1回仙台市ワークショップにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

●がん医療講演会 第1回テーマ ~緩和ケア~

第1回 栗原圏域がん医療講演会

《座長》
栗原市立栗原中央病院 副院長 中鉢誠司先生
《講師》
大崎市民病院 外科系診療部長 今野文博先生
東北大学病院 医学系研究科教授 宮下光令先生

日時:平成25年2月7日(木) 18:30~20:00
場所:エポカ21
(東北新幹線「くりこま高原駅」すぐ)

【対象】医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、介護福祉士等の医療、保健、福祉関係者
【参加費】無料 ※事前申し込み不要

第1回 登米圏域がん医療講演会

《座長》
登米市民病院 血管外科長 力丸裕人先生
《講師》
石巻赤十字病院 緩和医療科部長 日下潔先生

日時:平成25年3月8日(金) 18:30~20:00
場所:ホテルニューグランヴィア
(登米市役所より徒歩5分)



編集後記

COP通信をご覧いただき誠にありがとうございます。我々の活動に少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです。実はわたくし、社会人1年目なのですが、ずうずうしくも編集長の座をいただきCOP通信を作成しています。身長144.7cmとミニサイズですが、このプロジェクトを通して多くを学ばせていただき、いつの日か「小さな巨人」と呼ばれる日が来ることを夢見て日々精進していこうと思います。

活動を重ねるごとにCOP通信も、また、私自身もパワーアップしていきたいです!!今後、成長し続けるCOP通信に乞うご期待ください!!
(編集長 熊坂夏菜子)

編集委員

熊坂夏菜子(MSW)
真溪淳子(保健師)
小幡泉(CRC)
平塚明子(事務補佐)

【発行元】

東北大学病院がんセンター
先進包括的がん医療推進室
〒980-8574
宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
Tel:022-717-8885(直通)
Fax:022-717-8886
E-mail:cancercenter@hosp.tohoku.ac.jp
COP通信はみなさまからの
ご意見やご要望をお待ちしています。

COP通信

Comprehensive Oncology Program

第2号 2013.1

東北大学病院がんセンター
先進包括的がん医療推進室

URL: <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/cc/cop/cop.html>



このロゴマークは
デザイナーの許可を
得て使用しております

推進室の取り組み

●●●● 医師会員意識調査&かかりつけ医マップ作成 ●●●●

- 当推進室では宮城県医師会および各郡市医師会にご協力をいただき、内科・外科などのクリニックを対象としたアンケート調査を実施しています。
- この調査は、地域での診療の実情把握と、開業医のがん医療連携に対する考えや意見などの調査を行うために開始いたしました。また、クリニックの情報の一部を右の図のような医療連携マップとして作成し、だれもがいつでも情報を得られるようWeb上で公開していく予定です。
- この連携マップは、医療関係者の情報取得や患者さんへの情報提供など、幅広い場面で活用することのできるツールとなります。
- 現在、多くのクリニックからアンケートの返信をいただいております。今後、連携マップに参加していただくクリニックを順次訪問し、公開に向けて準備を進めてまいります。今回の調査で得られた地域医療の実態、がん医療に対する考えや意見をもとに、地域でのがん医療の在り方を見つめなおし、今後の活動に役立てていこうと思います。引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

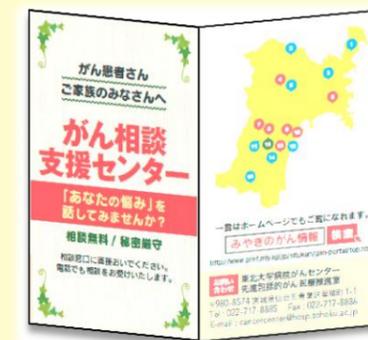


がん相談支援センター 周知ポスターを作成しました

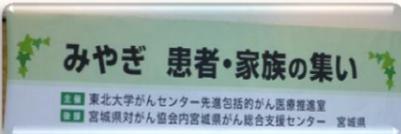
がん相談支援センターは、主にごがん診療連携拠点病院に設置されており、がんの病気や治療、療養生活について、医療福祉関係の資格を持つ相談員が情報探しのお手伝いをしたり、患者さんやご家族の相談にお応えする機関です。相談支援センターの存在については、広く認知されていない現状があり、残念ながら、がんの患者さんやご家族に十分に活用されていないことが全国的な課題として報告されています。

そこで、本推進室では、宮城県の皆様にごがん相談支援センターを活用していただけるように、がん相談支援センターの周知ポスターと携帯用カードを作成いたしました。ポスターとカードは、県内の病院、行政機関、居宅介護支援事業所等に配布させていただきました。

がんの患者さんにご家族に、必要な時に気兼ねなく相談窓口を活用していただけますよう、ぜひポスターと携帯カードをご活用いただけますようお願い申し上げます。



ポスターとカードについてのお問い合わせは本推進室まで。なお、ポスターは当推進室のホームページにてご覧いただけます。



みやぎ がん患者・家族の集い 開催報告

平成24年11月4日(土) 仙台市シルバーセンター

昨年の11月4日にみやぎ がん患者・家族の集いを開催いたしました。

当日は、宮城県内から59名のがんの患者さんとご家族にご参加いただきました。

第一部では、NPO法人 がん哲学外来 理事長 樋野興夫先生にお越しいただき、「がんと共に生きる」をテーマにご講演いただきました。樋野先生からは「一人ひとりの人間にはどんな時も役割と使命があるが、人はがんになった時にこの役割を見失ってしまう。しかし、自分に関心を持ってくれる誰かと対話することで、前に向かって歩き出す力を得るのだ」とお話しいただきました。



また、第二部では、「病に向き合う」をテーマに自分の想いを語り合うグループワークを実施いたしました。1時間半の時間があっという間に過ぎてしまうほど、患者さんとご家族は熱心に互いに話し合い、聞き合われていました。参加者の皆さんからは「これからの生き方の参考になった」、「同じ病気の方と話す機会があって、たくさん勉強になった」というご感想をいただきました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



研修後、参加者の三部敏彦様(岩沼市)よりお手紙をいただきました

11月4日、貴室主催のみやぎがん患者・家族の集いに参加し、講演「がんと共に生きる」を聴き、がんの治療を経験した者にとって役立ちました。また、第二部のグループワークにおいて出席の皆様のがん治療の経験のお話を聞いて参考になりました。私達のグループでは、私が最高齢(傘寿)であったと思います。スタッフの貴職員のリードにより各人が、それぞれのがん治療の体験談を話すことができたと感じております。隣のグループからは高い笑い声が聞こえて、会場の雰囲気が明るく元気づけられました。これからも、このような会合がありましたら参加したいと考えております。

[掲載についてはご本人様よりご承諾をいただいております]

「厚生労働省平成24年度チーム医療普及推進事業」による「がん薬物療法地域連携チーム医療」ワークショップ

平成24年12月15日(土) アエル21階ガーデンシティ

in 仙台

参加報告

地域連携コーディネーター

瀬谷 裕貴子



冬枯れの定禅寺通りにページェントの光が灯り始めた12月、仙台において、「厚生労働省平成24年度チーム医療普及推進事業」による「がん薬物療法地域連携チーム医療」ワークショップの第1回が開催されました(昨年24年12月15日、アエル21階TKPガーデンシティ)。本ワークショップは、平成23年度に多施設多職種で行った厚生労働省チーム医療実証事業の活動を、宮城県内および東北地方へ普及・推進することを目的とした事業の一環です。

今回は、県内の医療関係者38名が集いました。テーマを、「みんなで手をつなごう！患者さんを取り巻く仲間たち」と掲げ、各職種の専門家からの薬物療法についてのショートレクチャー、地域医療機関と

がん診療拠点病院のスタッフ合同による症例検討会、また、薬物療法を行うがん患者さんに注目した病診連携、薬薬連携、看看連携、病介連携など、様々な連携による患者サポートについてディスカッションを行いました。

参加をして驚いたのは、参加メンバーのエネルギーな行動力と貪欲に課題に取り組む姿勢です。様々な視点でがん患者さんのサポートに向き合う多職種の存在を目の当たりにし、これだけのパワフルなメンバーが身近にいることが、患者さんと私達医療者にとって今後の支えになると感じました。また、がん医療にチームで関わる重要性を再認識するとともに、顔の見える連携を図ることができました。次回もどのような出会いがあるか楽しみです。共にがん患者さんを支える仲間が出来る絶好のチャンスでもあります。皆さんもぜひ私達のワークショップに足を運んでみてくださいね！

ワークショップの今後の予定はP4のイベント情報をご覧ください。

連載企画！

おしえて！おばたさん！！

臨床試験てなんだろう？

第2回 なぜ臨床試験をするの？

がんセンター 臨床研究コーディネーター 小幡 泉

現在行われている多くの治療法が臨床試験によって進歩してきました。安全性や効果を臨床試験で認められた治療法が標準治療と呼ばれる治療になっています。

ただ全ての臨床試験で「効果がある」となるわけではなく、「期待するほどの効果はなかった」との結果になることも当然あります。参加いただいた患者さんに結果的には最良の治療が提供できない場合もありますが、それでも臨床試験を実施しないと安全性も効果もはっきりしないのです。

臨床試験には段階があり、その段階ごとに目的が異なっていますので簡単に紹介します。第Ⅰ相試験から開始され、安全性が確認できれば、第Ⅱ相へ、治療効果が期待される結果が得られれば第Ⅲ相へ進み、Ⅲ相で治療効果が確認できれば、治療薬や治療法として承認されます。

なぜ臨床試験をするのか？

…よりよい治療の開発のためではないでしょうか。「その治療本当に効果あるの?」と思ったことはありませんか? また既存の治療に効果のない患者さんには新しい治療法が検討されますよね。そんな疑問や新しい治療法の検証を、倫理委員会の承認のもとに規則に則り計画的に実施するのが臨床試験です。

～第Ⅰ相試験～

治療法の副作用を調べる段階で、薬の場合は安全に治療できる投与量の確認をします。少ない人数に対して行われます。

～第Ⅱ相試験～

第Ⅰ相試験で得られた安全な治療法を行い、その効果を探し副作用を確認します。

～第Ⅲ相試験～

前段階よりさらに多くの患者さんに参加いただき、既存の治療以上または同じくらいの効果があるか、安全性に問題がないか確認します。



Ⅱ・Ⅲ相試験はそれぞれ4～5年程かかることが多く、準備期間や論文発表までを考えると10年以上はかかるでしょうか。臨床試験は目の前の患者さんの治療であると同時に、将来の患者さんの治療法確立に必要なものなのです。

次号では臨床試験に対する規制について説明する予定です。ご質問などがありましたらお知らせください。



がん患者サロンの紹介



ほっとサロン 石巻地区在宅ホスピスケア連絡会



石巻地区で実施されている『ほっとサロン』は、がんで治療中の患者さんやご家族が、病気にまつわる様々な思いや療養上の不安について、ゆったりとお茶を飲みながら自由に話したり、過ごすことのできる場として、月1回、サロン主宰の北川さんのお宅で開催されています。お伺いさせていただいた当日は、15名ほどの患者さんが、皆さんおしゃれをして参加されており、口々に「ほっとサロンの日が待ち遠しいのよ」とお話ししてくださいました。参加者の皆さんの表情は明るく、大きな声で笑い合う、和やかなサロンの様子に、こちらまで心が温かくなりました。

独り暮らしの方も多く参加されており、「一人で家にいると気分が落ち込むこともあるけど、ここに来るとほっとするの。がんの患者として、気持ちがわかり合える仲間がいるからね」とお話しくださった患者さんの横で、ほかの参加者の皆さんが笑顔でうなづいていらっしゃる様子がとても印象的でした。

平成17年からサロンの主宰として活動されている北川さんは、「がんを患っても誰かに頼るだけでなく、患者さん自身が自分の力で生きていく姿勢を応援したい。私も患者さん方に支えられているから」とお話しくださいました。

北川さんのエールが患者さんに届いているからこそ、皆さんが明るい表情でサロンに参加できているのだろう、と感じることができました。がんの患者さんが病と向き合うためには、仲間との集い合いが大きな心のよりどころになることを教えていただいた、『ほっとサロン』訪問となりました。



みなさんとても素敵な表情です
左上が、ほっとサロン主宰の北川さん



おいしくてからだにやさしい手作りの
屋敷も提供していただけます